



## 「日本書紀」って、どういうものなの



奈良時代に完成した、日本最初の<sup>へんねんたい</sup>編年体の歴史書だよ。

### 漢文・編年体で書かれている

「日本書紀」は、奈良時代の720年に<sup>とねりしんのう</sup>舎人親王が完成させて、<sup>げんしょうてんのう</sup>元正天皇に提出した歴史書で、「日本紀」ともいいます。つくり始めた年については、681年説と714年説があります。全体は、漢文で書かれた本文30<sup>かん</sup>巻と、系図1巻からなりますが、系図は伝わっていません。本文の1・2巻は<sup>かみよ</sup>神代、3～30巻は<sup>しょだい</sup>初代<sup>じんむてんのう</sup>神武天皇から第4代<sup>じどうてんのう</sup>持統天皇までの時代の記事が、中国の歴史書に習って、編年体という年月日順に<sup>なら</sup>並べた形式で、書かれています。

### 本文とちがう説も取り上げている

「日本書紀」も、「古事記」と同じように、<sup>ていき</sup>帝紀(天皇に関する記録)や<sup>きゅうじ</sup>旧辞(古くから語り伝えられた事)をまとめてあります。しかし、「古事記」が、一つの事について、一つの説だけを書いてあるのに対し、「日本書紀」は、本文とはちがう説も取り上げています。また、<sup>ごうぞく</sup>豪族の祖先の記録、<sup>ゆらい</sup>神社やお寺の由来、<sup>ちようせん</sup>朝鮮や中国の歴史書、<sup>ちようてい</sup>朝廷の記録、個人の日記なども、参考として取り上げています。

### 歴史上の事実として信用できるのは、ごく一部

「日本書紀」は、<sup>こよみ</sup>暦も記録もない古い時代の物語を、編年体で書くために、物語の進行に合わせて、年月日をむりやりに当てはめています。また、神武天皇の<sup>そく</sup>即位を、<sup>い</sup>辛酉<sup>かのととり</sup>の年(紀元前660年)としたため、神武天皇は127歳、第6代孝安天皇は137歳、第11代垂仁天皇は140歳まで生きたことになるなど、初期の天皇は不自然な長生きをしたことになっています。これらのことから、ほぼ信用できるのは、<sup>てんむ</sup>天武・<sup>じどう</sup>持統天皇の時代(28～30巻)とされています。